

## 香川県子宮頸がん検診の精度管理のための技術的指針の改正案について

### 1 改正概要

子宮頸がん検診の精度管理上の観点から、記載内容の見直しを行う。

また、今後の改正手続きの効率化の観点から、不要と考えられる様式等を削除する。

### 2 主な改正内容

(新旧対照表は2ページ以降を参照。指針全文(見え消し)は別添を参照。)

#### ○「第4 検診計画の策定」

・「(様式1号) 子宮頸がん検診事業計画書」を削る。

(理由) 県が様式を示す必要性が低いため。

・「(別紙1) 仕様書に明記すべき必要最低限の精度管理項目」を削る。

(理由) 国立がん研究センターのホームページに最新版が掲載されているため。

#### ○「第6 検診方法等」

・「1 問診」の項目から「家族歴」を削る。

(理由) 子宮頸がん検診において、家族歴を聴取する必要性は低いため。

・「2 視診」から外陰部及び膣壁を観察することについての文言を削る。

(理由) 国立がん研究センターが示す「事業評価のためのチェックリスト」及び「仕様書に明記すべき最低限の精度管理項目」に合わせる。

#### ○「第7 検診結果の指導区分」

形式的な修正。

#### ○「第9 検診記録の整備及び精密検査結果の把握」

「(様式7号) 子宮頸がん検診結果集計表」を削る。

(理由) 厚生労働省が集計表様式を示しているため。

#### ○「第10 事業評価」

形式的な修正。

(理由) 厚生労働省が示す、がん検診の事業評価に関する報告書が、令和5年6月に見直されたため。

#### ○「様式第3号(子宮頸がん検診結果記録票)」

「子宮体部検診の必要性」及び「HPV検査実施及び結果」の欄を削る。

(理由) いずれも指針外の検診であるため。

#### ○「様式第5号(子宮頸部精密検査依頼書・結果報告書)」

1次検査における「HPV検査」及び精密検査における「クスコ診」を削る。

(理由) HPV検査は指針外の検診であり、精密検査ではコルポ診を実施するため。

## 新旧対照表

### 香川県子宮頸がん検診の精度管理のための技術的指針

新	旧
<p>第1～第3 略</p> <p>第4 検診計画の策定            関係機関と十分協議の上、子宮頸がん検診事業計画を<u>策定</u>する。なお、計画の<u>策定</u>に際しては、次の事項に留意する。</p> <p>1 <u>国立がん研究センターが示す</u>「仕様書に明記すべき必要最低限の精度管理項目」<u>※</u>を参考として検診実施機関を決定し、下記の事項等について十分協議を行う。</p> <p>2～4 略</p> <p>5 検診に必要な帳票類（様式<u>1号</u>・<u>3号</u>・4号・5号）を作成する。</p> <p>6 検診実施後の結果集計等を行う（「子宮頸がん検診受診者名簿」（様式<u>2号</u>）等を利用する。）。</p> <p><u>※ 「事業評価のためのチェックリストおよび仕様書に明記すべき必要最低限の精度管理項目」</u>  <a href="https://ganjoho.jp/med_pro/cancer_control/screening/check_list.html">https://ganjoho.jp/med_pro/cancer_control/screening/check_list.html</a></p> <p>第5 略</p> <p>第6 検診方法等            検診項目は、問診、視診、子宮頸部の細胞診とする。必要に応じて内診、コルポスコープ検査を行う。</p> <p>1 問診            問診に当たっては、不正性器出血等の現在の症状、月経及び分娩・妊娠等に関する事項、子宮頸部病変の既往歴、過去の検診の受診状況等を聴取する。</p> <p>2 視診</p>	<p>第1～第3 略</p> <p>第4 検診計画の策定            関係機関と十分協議の上、「<u>子宮頸がん検診事業計画書</u>」（様式<u>1号</u>）<u>等を作成</u>する。なお、計画書の<u>作成</u>に際しては、次の事項に留意する。</p> <p>1 「仕様書に明記すべき必要最低限の精度管理項目」（<u>別紙1</u>）を参考として検診実施機関を決定し、下記の事項等について十分協議を行う。</p> <p>2～4 略</p> <p>5 検診に必要な帳票類（様式<u>2号</u>・4号・5号・<u>6号</u>）を作成する。</p> <p>6 検診実施後の結果集計等を行う（「子宮頸がん検診受診者名簿」（様式<u>3号</u>）等を利用する。）。</p> <p>第5 略</p> <p>第6 検診方法等            検診項目は、問診、視診、子宮頸部の細胞診とする。必要に応じて内診、コルポスコープ検査を行う。</p> <p>1 問診            問診に当たっては、不正性器出血等の現在の症状、月経及び分娩・妊娠等に関する事項、子宮頸部病変の既往歴、<u>家族歴</u>、過去の検診の受診状況等を聴取する。</p> <p>2 視診</p>

新	旧
<p>膣鏡を挿入し、子宮頸部の状況を観察する。</p> <p>3 子宮頸部の細胞診  (1) ・ (2) 略  (3) 子宮頸部の細胞診の結果は、標本の適否の判定を行い、ベセスダシステム (別紙1参照) によって分類した上で、精密検査の必要性の有無を決定し、速やかに検査を依頼した者に通知する。なお、検体が不適切であった場合には、再度子宮頸部の細胞診を実施するものとする。</p> <p>4 略</p> <p>5 記録の整備  (1) 検診実施機関は、細胞診の結果を「子宮頸がん検診結果記録票」(様式3号) 等に記録し、少なくとも5年間は保存する。  (2) 略</p> <p>6 略</p> <p>第7 検診結果の指導区分  検診結果に基づく指導区分は、「要精検」及び「精検不要」とし、それぞれ次の内容の指導を行う。  <u>なお、精密検査の要否は別紙1に基づき決定する。</u></p> <p>1 「要精検」と区分された者  医療機関において精密検査を受診するように指導する。</p> <p>2 略</p>	<p><u>外陰部を観察し、その後膣鏡を挿入し、<u>膣壁並びに</u>子宮頸部の状況を観察する。</u></p> <p>3 子宮頸部の細胞診  (1) ・ (2) 略  (3) 子宮頸部の細胞診の結果は、標本の適否の判定を行い、ベセスダシステム (別紙2参照) によって分類した上で、精密検査の必要性の有無を決定し、速やかに検査を依頼した者に通知する。なお、検体が不適切であった場合には、再度子宮頸部の細胞診を実施するものとする。</p> <p>4 略</p> <p>5 記録の整備  (1) 検診実施機関は、細胞診の結果を「子宮頸がん検診結果記録票」(様式4号) 等に記録し、少なくとも5年間は保存する。  (2) 略</p> <p>6 略</p> <p>第7 検診結果の指導区分  検診結果に基づく指導区分は、「要精検」及び「精検不要」とし、それぞれ次の内容の指導を行う。</p> <p>1 「要精検」と区分された者  医療機関において精密検査を受診するように指導する。  <u>子宮頸がん検診の結果、ベセスダシステムで「扁平上皮系異常」、  「腺系異常」と判定された者 (別紙2参照)</u></p> <p>2 略</p>

新	旧
<p>第8 検診結果の報告及び通知</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 市町又は検診実施機関は、検診終了後速やかに、検診結果を「子宮頸がん検診受診者名簿」（様式2号）に記録する。</li> <li>2 市町又は検診実施機関は、検診結果報告を基に、受診者あてに「子宮頸がん検診結果通知書」（様式4号）を作成し、精密検査の必要性の有無を附し、受診者に速やかに通知する。 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 要精密検査：「子宮頸がん検診結果通知書」（様式4号）及び「子宮頸部精密検査依頼書」（様式5号）</li> <li>(2) 精検不要：「子宮頸がん検診結果通知書（様式4号）」</li> </ol> </li> </ol> <p>第9 検診記録の整備及び精密検査結果の把握</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 検診記録の整備 <p>市町は、検診実施機関等と連携を図り、「子宮頸がん検診受診者名簿」（様式2号）等に、受診者の氏名、年齢、住所、過去の検診受診状況、子宮頸部の細胞診の結果、精密検査の受診勧奨の有無、精密検査受診の有無、精密検査結果等を記録し、また、<u>国のがん検診事業等の報告である「地域保健・健康増進事業報告」に対応できる集計表</u>を作成する。</p> <p>また、受診指導の記録を併せて整理するほか、必要に応じて個人票を作成し、医療機関における確定診断の結果及び治療の状況等を記録する。</p> </li> <li>2 子宮頸がん検診精密検査結果の把握 <p>市町又は検診実施機関は、「子宮頸部精密検査依頼書」（様式5号）等により精密検査実施医療機関に精密検査を依頼するとともに、その結果を把握する。</p> </li> </ol>	<p>第8 検診結果の報告及び通知</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 市町又は検診実施機関は、検診終了後速やかに、検診結果を「子宮頸がん検診受診者名簿」（様式3号）に記録する。</li> <li>2 市町又は検診実施機関は、検診結果報告を基に、受診者あてに「子宮頸がん検診結果通知書」（様式5号）を作成し、精密検査の必要性の有無を附し、受診者に速やかに通知する。 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 要精密検査：「子宮頸がん検診結果通知書」（様式5号）及び「子宮頸部精密検査依頼書」（様式6号）</li> <li>(2) 精検不要：「子宮頸がん検診結果通知書（様式5号）」</li> </ol> </li> </ol> <p>第9 検診記録の整備及び精密検査結果の把握</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 検診記録の整備 <p>市町は、検診実施機関等と連携を図り、「子宮頸がん検診受診者名簿」（様式3号）等に、受診者の氏名、年齢、住所、過去の検診受診状況、子宮頸部の細胞診の結果、精密検査の受診勧奨の有無、精密検査受診の有無、精密検査結果等を記録し、また、<u>「子宮頸がん検診結果集計表」（様式7号）</u>を作成する。</p> <p>また、受診指導の記録を併せて整理するほか、必要に応じて個人票を作成し、医療機関における確定診断の結果及び治療の状況等を記録する。</p> </li> <li>2 子宮頸がん検診精密検査結果の把握 <p>市町又は検診実施機関は、「子宮頸部精密検査依頼書」（様式6号）等により精密検査実施医療機関に精密検査を依頼するとともに、その結果を把握する。</p> </li> </ol>

新	旧
<p>第10 事業評価</p> <p>がん検診における事業評価については、<u>令和5年6月に厚生労働省がん検診のあり方に関する検討会においてとりまとめられた報告書「がん検診事業のあり方について」</u>（以下「報告書」という。）において<u>示された</u>基本的な考え方を<u>基に</u>、「事業評価のためのチェックリスト」*（以下「チェックリスト」という。）<u>等により実施状況を把握するとともに</u>、がん検診受診率、要精検率、精検受診率、陽性反応的中度、がん発見率等の「<u>プロセス指標</u>」に基づく評価を行うこととする。</p> <p>市町は、「チェックリスト（市区町村用）」*を参考とするなどして、検診の実施状況を把握する。その上で、保健所、地域医師会及び検診実施機関等関係者と十分協議を行い、地域における実施体制の整備に努めるとともに、子宮がん部会における検討結果を踏まえ、その指導又は助言に基づき、検診実施機関の選定及び実施方法等の改善を行う。</p> <p>また、県は、子宮がん部会において、全国がん登録を活用するとともに、「チェックリスト（都道府県用）」*を参考とするなどして、がんの罹患動向、検診の実施方法及び精度管理の在り方等について専門的な見地から検討を行う。さらに、「チェックリスト（市区町村用<u>及び検診実施機関用</u>）」*の結果を踏まえ、市町に対する技術的支援及び検診実施機関に対する指導を行う。</p> <p><u>報告書の見直しが行われた場合は、新たな内容に基づき事業評価を行うこととする。</u></p> <p>※ 「事業評価のためのチェックリスト」については、国立がん研究センターが示す「事業評価のためのチェックリスト」を参考にする。 「事業評価のためのチェックリストおよび仕様書に明記すべき必要</p>	<p>第10 事業評価</p> <p>がん検診における事業評価については、<u>平成20年3月に厚生労働省「がん検診事業の評価に関する委員会」がとりまとめた報告書「今後のわが国におけるがん検診事業評価の在り方について」</u>（以下「報告書」という。）において、<u>その基本的な考え方を示しているところである。一義的にはアウトカム指標としての死亡率により行われるべきであるが、死亡率減少効果が現れるまでに相当の時間を要すること等から、「技術・体制的指標」と「プロセス指標」による評価を徹底し、結果として死亡率減少を目指すことが適当とされた。この「技術・体制的指標」として、「事業評価のためのチェックリスト」*（以下「チェックリスト」という。）及び「仕様書に明記すべき最低限の精度管理項目」が示され、「プロセス指標」として、がん検診受診率、要精検率、精検受診率、陽性反応的中度、がん発見率等の許容値が示された。</u></p> <p><u>そこで、子宮頸がん検診の実施に当たっては、適切な方法及び精度管理の下で実施することが不可欠であることから、</u>市町は、「チェックリスト（市区町村用）」*を参考とするなどして、検診の実施状況を把握する。その上で、保健所、地域医師会及び検診実施機関等関係者と十分協議を行い、地域における実施体制の整備に努めるとともに、子宮がん部会における検討結果を踏まえ、その指導又は助言に基づき、検診実施機関の選定及び実施方法等の改善を行う。</p> <p>また、県は、子宮がん部会において、全国がん登録を活用するとともに、「チェックリスト（都道府県用）」*を参考とするなどして、がんの罹患動向、検診の実施方法及び精度管理の在り方等について専門的な見地から検討を行う。さらに、「チェックリスト（市区町村用）」*の結果を踏まえ、市町に対する技術的支援及び検診実施機関に対する指導を行う。</p>

新	旧
<p>最低限の精度管理項目」  <a href="https://ganjoho.jp/med_pro/cancer_control/screening/check_list.html">https://ganjoho.jp/med_pro/cancer_control/screening/check_list.html</a></p> <p>第11・第12 略</p> <p>(別紙<del>1</del>) 細胞診結果 (ベセスダシステム)</p> <p>(様式<del>1</del>号) 子宮頸がん検診問診票  生年月日： 年 月 日  これまでに子宮頸がん検診を受けたことがありますか  ( 年 月 ) 頃に治療終了</p>	<p>※ 「事業評価のためのチェックリスト」については、国立がん研究センターが示す「事業評価のためのチェックリスト」を参考にする。  「事業評価のためのチェックリストおよび仕様書に明記すべき必要最低限の精度管理項目」  <a href="https://ganjoho.jp/med_pro/cancer_control/screening/check_list.html">https://ganjoho.jp/med_pro/cancer_control/screening/check_list.html</a></p> <p>第11・第12 略</p> <p><del>(別紙1) 仕様書に明記すべき必要最低限の精度管理項目 削除</del></p> <p>(別紙<del>2</del>) 細胞診結果 (ベセスダシステム)</p> <p><del>(様式1号) 子宮頸がん検診事業計画書 削除</del></p> <p>(様式<del>2</del>号) 子宮頸がん検診問診票  生年月日：<del>大・昭・平</del> 年 月 日  これまでに子宮<del>(頸)</del>がん検診を受けたことがありますか  ( ) <del>年</del>頃に治療終了</p>

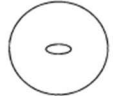


新

(様式3号) 子宮頸がん検診結果記録票

(様式3号) 子宮頸がん検診結果記録票

市町名 \_\_\_\_\_


ふりがな 氏名	住所 電話番号 ( ) - ( ) - ( )
生年月日	年 月 日 ( 歳)
検体番号	
検診日	年 月 日 検診場所
検診機関名	検診機関住所
電話番号 ( ) - ( )	担当医師
検体の採取方法 <input type="checkbox"/> 従来法 <input type="checkbox"/> 液状検体法 <input type="checkbox"/> その他 ( )	採取器具 <input type="checkbox"/> 綿棒又は綿球 <input type="checkbox"/> スクレーパー <input type="checkbox"/> プラシ <input type="checkbox"/> その他 ( )
クスコ診あるいはコルポスコープ所見  びらん あり・なし 萎縮 あり・なし	双合診 異常 あり・なし ありの場合 ( )
<b>子宮頸部細胞診判定</b>	
<b>ベセスダシステム</b> ・標本の適否 <input type="checkbox"/> 適正 <input type="checkbox"/> 不適正 ( ) ・陰性(NILM) <input type="checkbox"/> 微生物 <input type="checkbox"/> その他の非腫瘍性所見 ( ) ・扁平上皮系異常 <input type="checkbox"/> ASC-US <input type="checkbox"/> ASC-H <input type="checkbox"/> LSIL <input type="checkbox"/> HSIL <input type="checkbox"/> SCC	・腺系異常 <input type="checkbox"/> AGC <input type="checkbox"/> AIS <input type="checkbox"/> 腺がん(Adeno Ca.) <input type="checkbox"/> その他の悪性腫瘍 ( )
<b>子宮頸がん検診中/後の偶発症の有無 ※入院治療を要するもの</b>	
・重篤な偶発症の確認 <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり ( ) ・偶発症による死亡 <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり ( )	
検診判定結果 <input type="checkbox"/> 判定不能 <input type="checkbox"/> 異常なし <input type="checkbox"/> 要精検	所見:  細胞検査士: _____ 細胞診専門医: _____

旧

(様式4号) 子宮頸がん検診結果記録票

(様式4号) 子宮頸がん検診結果記録票

市町名 \_\_\_\_\_

ふりがな 氏名	住所 電話番号 ( ) - ( ) - ( )
生年月日	大・昭・平 年 月 日生 ( 歳)
検体番号	
検診日	令和 年 月 日 検診場所
検診機関名	検診機関住所
電話番号 ( ) - ( )	担当医師
検体の採取方法 <input type="checkbox"/> 従来法 <input type="checkbox"/> 液状検体法 <input type="checkbox"/> その他 ( )	採取器具 <input type="checkbox"/> 綿棒又は綿球 <input type="checkbox"/> スクレーパー <input type="checkbox"/> プラシ <input type="checkbox"/> その他 ( )
クスコ診あるいはコルポスコープ所見  びらん あり・なし 萎縮 あり・なし	双合診 異常 あり・なし ありの場合 ( )
<b>子宮頸部細胞診の必要性 (※医師が記入する)</b>	
<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	
<b>子宮頸部細胞診判定</b>	
<b>ベセスダシステム</b> ・標本の適否 <input type="checkbox"/> 適正 <input type="checkbox"/> 不適正 ( ) ・陰性(NILM) <input type="checkbox"/> 微生物 <input type="checkbox"/> その他の非腫瘍性所見 ( ) ・扁平上皮系異常 <input type="checkbox"/> ASC-US <input type="checkbox"/> ASC-H <input type="checkbox"/> LSIL <input type="checkbox"/> HSIL <input type="checkbox"/> SCC	・腺系異常 <input type="checkbox"/> AGC <input type="checkbox"/> AIS <input type="checkbox"/> 腺がん(Adeno Ca.) <input type="checkbox"/> その他の悪性腫瘍 ( )
<b>HPV検査実施及び結果</b>	
<input type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 未実施 結果: <input type="checkbox"/> 陰性 <input type="checkbox"/> 陽性	
検診判定結果 <input type="checkbox"/> 判定不能 <input type="checkbox"/> 異常なし <input type="checkbox"/> 要精検	所見:  細胞検査士: _____ 細胞診専門医: _____



新	旧
<p>(様式4号) 子宮頸がん検診結果通知書</p> <p>(様式5-1号) 子宮頸部精密検査依頼書 生年月日： 年 月 日</p> <p>検査結果 (1) コルポスコープ所見 (3)細胞診検査・(4)組織検査 <input type="checkbox"/>あり： 年 月 日</p> <p>(様式5-2号) 子宮頸部精密検査結果報告書 (検診実施機関用) 生年月日： 年 月 日 検査結果 (1) コルポスコープ所見 (3)細胞診検査・(4)組織検査 <input type="checkbox"/>あり： 年 月 日</p> <p>(様式5-3号) 子宮頸部精密検査結果報告書 (市町用) 生年月日： 年 月 日 検査結果 (1) コルポスコープ所見 (3)細胞診検査・(4)組織検査 <input type="checkbox"/>あり： 年 月 日</p>	<p>(様式5号) 子宮頸がん検診結果通知書</p> <p>(様式6-1号) 子宮頸部精密検査依頼書 生年月日：大・昭・平 年 月 日 生 <u>HPV検査 ・実施<input type="checkbox"/>あり <input type="checkbox"/>なし ・結果<input type="checkbox"/>陰性 <input type="checkbox"/>陽性 ( )</u> 検査結果 (1) <u>クスコ診あるいは</u>コルポスコープ所見 (3)細胞診検査・(4)組織検査 <input type="checkbox"/>あり：令和 年 月 日</p> <p>(様式6-2号) 子宮頸部精密検査結果報告書 (検診実施機関用) 生年月日：大・昭・平 年 月 日 生 検査結果 (1) <u>クスコ診あるいは</u>コルポスコープ所見 (3)細胞診検査・(4)組織検査 <input type="checkbox"/>あり：令和 年 月 日</p> <p>(様式6-3号) 子宮頸部精密検査結果報告書 (市町用) 生年月日：大・昭・平 年 月 日 生 検査結果 (1) <u>クスコ診あるいは</u>コルポスコープ所見 (3)細胞診検査・(4)組織検査 <input type="checkbox"/>あり：令和 年 月 日</p> <p><u>(様式7-1号) 子宮頸がん検診結果集計表 (検診機関別) 削除</u></p> <p><u>(様式7-2号) 子宮頸がん検診結果集計表 (総合) 削除</u></p>

# 香川県子宮頸がん検診の精度管理のための技術的指針

令和6年 月

香川県健康福祉部健康福祉総務課

## 香川県子宮頸がん検診の精度管理のための技術的指針

第1	目的	1
第2	検診対象者	1
第3	実施回数	1
第4	検診計画の策定	1
第5	受診勧奨	1
第6	検診方法等	2
第7	検診結果の指導区分	3
第8	検診結果の報告及び通知	3
第9	検診記録の整備及び精密検査結果の把握	3
第10	事業評価	4
第11	検診実施機関	4
第12	精密検査等	5

### ~~(別紙1) 仕様書に明記すべき必要最低限の精度管理項目~~

(別紙2.1)	細胞診結果(ベセスダシステム)	6
---------	-----------------	---

### ~~(様式1号) 子宮頸がん検診事業計画書~~

(様式2.1号)	子宮頸がん検診問診票	8
(様式3.2号)	子宮頸がん検診受診者名簿	9
(様式4.3号)	子宮頸がん検診結果記録票	10
(様式5.4号)	子宮頸がん検診結果通知書	11
(様式6.5-1号)	子宮頸部精密検査依頼書	12
(様式6.5-2号)	子宮頸部精密検査結果報告書(検診実施機関用)	13
(様式6.5-3号)	子宮頸部精密検査結果報告書(市町用)	14

### ~~(様式7-1号) 子宮頸がん検診結果集計表(検診機関別)~~

### ~~(様式7-2号) 子宮頸がん検診結果集計表(総合)~~

# 香川県子宮頸がん検診の精度管理のための技術的指針

## 第1 目的

この指針は、すべての市町において、国の指針等に基づいた科学的に効果の明らかな方法で、子宮頸がん検診及びその精度管理が実施され、さらには事業評価や住民への受診勧奨などが適切に行われることにより、県民のがんの早期発見に資することを目的とする。

## 第2 検診対象者

子宮頸がん検診の対象者は、当該市町に居住地を有する20歳以上の女性とする。

なお、受診を特に推奨する者を20歳以上69歳以下の者とする。ただし、受診を特に推奨する者に該当しない70歳以上の者に対しても、受診の機会を提供するよう留意すること。

## 第3 実施回数

子宮頸がん検診は、原則として同一人について2年に1回実施する。

なお、受診機会は、必ず毎年度設けることとする。

## 第4 検診計画の策定

関係機関と十分協議の上、「~~子宮頸がん検診事業計画書~~」(様式~~1号~~)等を作成策定する。なお、計画書の作成策定に際しては、次の事項に留意する。

- 1 国立がん研究センターが示す「仕様書に明記すべき必要最低限の精度管理項目」<sup>※(別紙1)</sup>を参考として検診実施機関を決定し、下記の事項等について十分協議を行う。
- 2 検診対象者を住民基本台帳等で把握する。
- 3 検診実施期間、予定人数、実施場所を決定する。
- 4 検診の周知方法とその時期を決定する。
- 5 検診に必要な帳票類(様式~~2~~1号・3号・4号・5号・~~6号~~)を作成する。
- 6 検診実施後の結果集計等を行う(「子宮頸がん検診受診者名簿」(様式~~3~~2号)等を利用する。)

※ 「事業評価のためのチェックリストおよび仕様書に明記すべき必要最低限の精度管理項目」  
([https://gan.joho.jp/med\\_pro/cancer\\_control/screening/check\\_list.html](https://gan.joho.jp/med_pro/cancer_control/screening/check_list.html))

## 第5 受診勧奨

市町は、子宮頸がん及び子宮頸がん検診に関する正しい知識を普及啓発するとともに、対象者に受診勧奨を行う。対象者のうち、受診を特に推奨する者でこれまでに子宮頸がん検診を受診したことがない者に対しては、積極的な受診勧奨を行う。

受診勧奨は、受診率の向上及び精度管理の観点から、個別通知によることが望ましく、次の事

項に留意する。

- 1 受診者の拡大に努めるとともに、受診者の固定化を防止し、検診の効果の向上を図る。
- 2 罹患率や有病率などを参考とし、子宮頸がん対策上重要と考えられる年齢層の受診を促進する。
- 3 他のがん検診受診機会の有無を確認するなど、対象者を正確に把握する。
- 4 検診対象者のリストを作成し、がん検診受診状況等を台帳等により管理する。
- 5 がん検診の対象者自身が、がん検診の利益・不利益を考慮した上で受診を検討できるよう、受診勧奨に当たっては、対象者に対してがん検診の利益・不利益の説明を行うこと。ただし、不利益の説明をするときは、指針に定めるがん検診の受診率低下を招かないよう、伝え方に留意すること。

<がん検診の利益・不利益について>

(利益の例)

- ・検診受診後のがんの早期発見・早期治療による死亡率減少効果があること
- ・早期に発見できるために侵襲の軽度な治療で済むこと
- ・がん検診で「異常なし」と判定された場合に安心感を得られること等

(不利益の例)

- ・偽陰性、偽陽性（また、その判定結果を受けて不安を生じることや、結果として不必要な精密検査を受ける場合があること。）、過剰診断、偶発症等

## 第6 検診方法等

検診項目は、問診、視診、子宮頸部の細胞診とする。必要に応じて内診、コルポスコープ検査を行う。

### 1 問診

問診に当たっては、不正性器出血等の現在の症状、月経及び分娩・妊娠等に関する事項、子宮頸部病変の既往歴、~~家族歴~~過去の検診の受診状況等を聴取する。

### 2 視診

~~外陰部を観察し、その後~~陰鏡を挿入し、~~膈壁並びに~~子宮頸部の状況を観察する。

### 3 子宮頸部の細胞診

- (1) 子宮頸部の細胞診については、子宮頸部及び膈部表面の全面擦過法によって、検体を採取し、迅速に処理（固定等）した後、パパニコロウ染色を行い、顕微鏡下で観察する。
- (2) 検体の顕微鏡検査は、十分な経験を有する医師及び臨床検査技師を有する専門的検査機関において行う。この場合において、医師及び臨床検査技師は、公益社団法人日本臨床細胞学会認定の細胞診専門医及び細胞検査士であることが望ましい。
- (3) 子宮頸部の細胞診の結果は、標本の適否の判定を行い、ベセスダシステム（別紙-2.1参照）によって分類した上で、精密検査の必要性の有無を決定し、速やかに検査を依頼した者に通知する。なお、検体が不適切であった場合には、再度子宮頸部の細胞診を実施

するものとする。

#### 4 内診及びコルポスコープ検査

必要に応じて、双合診やコルポスコープ検査を実施する。

#### 5 記録の整備

(1) 検診実施機関は、細胞診の結果を「子宮頸がん検診結果記録票」（様式4.3号）等に記録し、少なくとも5年間は保存する。

(2) 検診実施機関は、検診結果を市町に報告する。

#### 6 その他

問診の結果、最近6か月以内に、不正性器出血（一過性の少量の出血、閉経後出血等）、月経異常（過多月経、不規則月経等）及び褐色帯下のいずれかの症状を有していたことが判明した者に対しては、子宮体がんの有症状者である疑いがあることから、第一選択として、十分な安全管理の下で多様な検査を実施できる医療機関へ受診を勧奨する。

### 第7 検診結果の指導区分

検診結果に基づく指導区分は、「要精検」及び「精検不要」とし、それぞれ次の内容の指導を行う。

なお、精密検査の要否は別紙1に基づき決定する。

#### 1 「要精検」と区分された者

医療機関において精密検査を受診するように指導する。

~~子宮頸がん検診の結果、ベセスダシステムで「扁平上皮系異常」、「腺系異常」と判定された者（別紙2参照）~~

#### 2 「精検不要」と区分された者

2年後の検診受診を勧める。併せて、検診で精検不要であったとしても、検診後に子宮頸がんが疑われる症状等が出現した場合は、速やかに医療機関を受診するように指導する。

### 第8 検診結果の報告及び通知

1 市町又は検診実施機関は、検診終了後速やかに、検診結果を「子宮頸がん検診受診者名簿」（様式3.2号）に記録する。

2 市町又は検診実施機関は、検診結果報告を基に、受診者あてに「子宮頸がん検診結果通知書」（様式5.4号）を作成し、精密検査の必要性の有無を附し、受診者に速やかに通知する。

(1) 要精密検査：「子宮頸がん検診結果通知書」（様式5.4号）及び「子宮頸部精密検査依頼書」（様式6.5号）

(2) 精検不要：「子宮頸がん検診結果通知書（様式5.4号）」

### 第9 検診記録の整備及び精密検査結果の把握

#### 1 検診記録の整備

市町は、検診実施機関等と連携を図り、「子宮頸がん検診受診者名簿」（様式3-2号）等に、受診者の氏名、年齢、住所、過去の検診受診状況、子宮頸部の細胞診の結果、精密検査の受診勧奨の有無、精密検査受診の有無、精密検査結果等を記録し、また、「子宮頸がん検診結果集計表」（様式7号）国のがん検診事業等の報告である「地域保健・健康増進事業報告」に対応できる集計表を作成する。

また、受診指導の記録を併せて整理するほか、必要に応じて個人票を作成し、医療機関における確定診断の結果及び治療の状況等を記録する。

## 2 子宮頸がん検診精密検査結果の把握

市町又は検診実施機関は、「子宮頸部精密検査依頼書」（様式6-5号）等により精密検査実施医療機関に精密検査を依頼するとともに、その結果を把握する。

## 第10 事業評価

がん検診における事業評価については、平成20年3月令和5年6月に厚生労働省「がん検診事業の評価に関する委員会」ががん検診のあり方に関する検討会においてとりまとめられた報告書「今後のわが国におけるがん検診事業評価の在り方について」「がん検診事業のあり方について」（以下「報告書」という。）において、~~その示された~~基本的な考え方を示しているところである。~~一義的にはアウトカム指標としての死亡率により行われるべきであるが、死亡率減少効果が現れるまでに相当の時間を要すること等から、「技術・体制的指標」と「プロセス指標」による評価を徹底し、結果として死亡率減少を目指すことが適当とされた。この「技術・体制的指標」として、~~基に、「事業評価のためのチェックリスト」\*（以下「チェックリスト」という。）及び「住~~様書に明記すべき最低限の精度管理項目」が示され、「プロセス指標」として、等により実施状況を把握するとともに、~~がん検診受診率、要精検率、精検受診率、陽性反応的中度、がん発見率等の許容値が示された「プロセス指標」に基づく評価を行うこととする。

~~そこで、子宮頸がん検診の実施に当たっては、適切な方法及び精度管理の下で実施することが不可欠であることから、~~市町は、「チェックリスト（市区町村用）」\*を参考とするなどして、検診の実施状況を把握する。その上で、保健所、地域医師会及び検診実施機関等関係者と十分協議を行い、地域における実施体制の整備に努めるとともに、子宮がん部会における検討結果を踏まえ、その指導又は助言に基づき、検診実施機関の選定及び実施方法等の改善を行う。

また、県は、子宮がん部会において、全国がん登録を活用するとともに、「チェックリスト（都道府県用）」\*を参考とするなどして、がんの罹患動向、検診の実施方法及び精度管理の在り方等について専門的な見地から検討を行う。さらに、「チェックリスト（市区町村用及び検診実施機関用）」\*の結果を踏まえ、市町に対する技術的支援及び検診実施機関に対する指導を行う。

報告書の見直しが行われた場合は、新たな内容に基づき事業評価を行うこととする。

※ 「事業評価のためのチェックリスト」については、国立がん研究センターが示す「事業評価のためのチェックリスト」を参考にする。

「事業評価のためのチェックリストおよび仕様書に明記すべき必要最低限の精度管理項目」  
([https://ganjoho.jp/med\\_pro/cancer\\_control/screening/check\\_list.html](https://ganjoho.jp/med_pro/cancer_control/screening/check_list.html))

## 第11 検診実施機関

- 1 検診実施機関は、適切な方法及び精度管理の下で子宮頸がん検診が円滑に実施されるよう、「チェックリスト（検診実施機関用）」を参考とするなどして、細胞診等の精度管理に努める。
- 2 検診実施機関は、子宮頸がんに関する正確な知識及び技能を有するものでなければならない。
- 3 検診実施機関は、精密検査実施機関と連絡をとり、精密検査結果の把握に努めなければならない。
- 4 検診実施機関は、検体及び検診結果を少なくとも5年間は保存しなければならない。
- 5 検診実施機関は、香川県がん対策推進協議会及び子宮がん部会における検診結果や助言を踏まえ、実施方法等の改善に努める。

## 第12 精密検査等

- 1 子宮頸がん検診において「要精検」とされた場合は、必ず精密検査を受けるよう、あらかじめ全ての検診受診者に周知する。  
なお、その際には、精密検査を実施することにより、子宮頸がんの早期治療ができる可能性があるなどの科学的知見に基づき、十分な説明を行う。
- 2 精密検査実施医療機関は、精密検査の結果を、速やかに検査を依頼した者に対し通知する。

## 第6 検診方法等

### 国の指針

子宮頸がん検診の検診項目は、問診、視診、子宮頸部の細胞診及び内診とする。必要に応じて  
コルポスコープ検査を行う。



### 県の指針

検診項目は、問診、視診、子宮頸部の細胞診とする。必要に応じて内診、コルポスコープ検査  
を行う。

### 国の指針

#### イ 視診

膣鏡を挿入し、子宮頸部の状況を観察する。

### 県の指針

#### 2 視診

外陰部を観察し、その後膣鏡を挿入し、膣壁並びに子宮頸部の状況を観察する。



### 国の指針

#### エ 内診

双合診を実施する。

### 県の指針

#### 4 内診及びコルポスコープ検査

必要に応じて、双合診やコルポスコープ検査を実施する。





(別紙-2-1)

## 細胞診結果 (ベセスダシステム)

### 【扁平上皮系】

結果	略語	推定される病理診断 (※1)	従来の クラス分類	英語表記	取扱い (参考)
1) 陰性	NILM	非腫瘍性所見 炎症	I、II	Negative for intraepithelial lesion or malignancy	異常なし：定期検診
2) 意義不明な 異型扁平上皮細胞	ASC-US	軽度扁平上皮内病変疑い (※2) 説明：「判定が難しい」 「識別できない」	II、IIIa	Atypical squamous cells of undetermined significance	要精検： ①HPV 検査による判定が望ましい 陰性：1年後に細胞診 陽性：コルポスコピー、生検 ②HPV 検査非施行 6か月以内細胞診再検査
3) HSIL を除外できない 異型扁平上皮細胞	ASC-H	高度扁平上皮内病変疑い (※3) 説明：「高度病変を疑う」	III/III b	Atypical squamous cells cannot exclude HSIL	要精検： コルポスコピー、生検
4) 軽度扁平上皮内病変	LSIL	HPV 感染 CIN1 (軽度異形成)	IIIa	Low grade squamous intraepithelial lesion	
5) 高度扁平上皮内病変	HSIL	CIN2 (中程度異形成) CIN3 (高度異形成／上皮 内がん)	IIIa IIIb IV	High grade squamous intraepithelial lesion	
6) 扁平上皮がん	SCC	扁平上皮がん (IA 期のが んを含む)	V	Squamous cell carcinoma	

【腺系】

7) 異型腺細胞	AGC	腺異形成、腺系病変疑い	Ⅲ	Atypical glandular cells	要精検： コルポスコピー、生検、 頸管及び内膜細胞診又は組織診
8) 上皮内腺がん	AIS	上皮内腺がん	Ⅳ	Adenocarcinoma in situ	
9) 腺がん	Adeno-carcinoma	腺がん	Ⅴ	Adenocarcinoma	

【その他の悪性腫瘍】

10) その他の悪性腫瘍	other	その他の悪性腫瘍	Ⅴ	Other malignant neoplasms	要精検：病変検索
--------------	-------	----------	---	---------------------------	----------

- ※1 推定される病理診断：報告書には臨床的取扱いの参考にするために、推定される病理組織分類を従来どおり付記することが推奨される。
- ※2 意義不明な異型扁平上皮細胞（ASC-US）：軽度扁平上皮内病変（LSIL）疑い（否定できない）。全報告の5%以下であることが期待される。ハイリスク HPV が約 50%に検出される。約 10～20%は CIN2－CIN3（中等度－高度異形成、上皮内がん）と最終診断される。
- ※3 HSIL を除外できない異型扁平上皮細胞（ASC-H）：高度扁平上皮内病変（HSIL）疑い（否定できない）。全 ASC の 10%以下であることが期待される。CIN2（中等度異形成）以上と最終診断される率が ASC-US より高い。

# 子宮頸がん検診問診票

市町名

検診日	年 月 日	検体番号	
ふりがな		住 所	
氏 名			
電話番号	( ) -	生年月日	<del>夫・昭・平</del> 年 月 日 ( 歳)

※ あてはまるものを○で囲み、( )に必要事項を記入してください。

1 これまでに子宮(頸)がん検診を受けたことがありますか		
(1) 今回初めて (2) 昨年受診あり (3) 過去3年以内に受診あり (4) 過去3年以内に受診なし	} 前回の検診結果は a 異常あり (結果 ) b 異常なし	
2 子宮の手術や病気がありますか		
(1) あり (病名 ) (2) なし		
↳ a 現在治療中	b ( 年 月)年頃に治療終了	
3 結婚歴		
(1) あり (結婚年齢 歳 )	(2) なし	
4 妊娠・出産歴		
(1) あり (2) なし		
a 妊娠回数 ( 回)	{ 生産 回 死産 回 流産 回(人工 回、自然 回)	
b 最終の出産・流産はいつですか ( 歳)		
c 帝王切開はありますか ( 年 月 ・ 年 月)		
d 現在 ① 妊娠( ヶ月) ② 産後( ヶ月 ) ③ 授乳中		
5 月経歴		
(1) あり (2) なし(閉経 歳)		
(最近の月経 月 日 ~ 月 日)		
(1)の場合、月経間隔は		
a 順調	b 不順	
6 過去6か月以内に気になる出血(不正性器出血)はありますか		
(1) あり (2) なし		
↳ (1)の場合		
a 閉経後出血	b 過少月経	c 過多月経
d 過長月経	e 不規則出血	f 一時的な不正出血
g 褐色帯下	h その他( )	



# 子宮頸がん検診結果記録票

市町名 \_\_\_\_\_

ふりがな 氏名	住所 電話番号 ( ) -	
生年月日	夫・昭・平 年 月 日生 ( 歳)	
検体番号		
検診日	令和 年 月 日	検診場所
検診機関名	検診機関 住所	
電話番号 ( ) -	担当医師	
検体の採取方法 <input type="checkbox"/> 従来法 <input type="checkbox"/> 液状検体法 <input type="checkbox"/> その他 ( )		採取器具 <input type="checkbox"/> 綿棒又は綿球 <input type="checkbox"/> スクレーパー <input type="checkbox"/> ブラシ <input type="checkbox"/> その他 ( )
クスコ診あるいはコルポスコープ所見  びらん あり・なし 萎縮 あり・なし		双合診 異常 あり・なし ↓ ありの場合 ( )
子宮体部検診の必要性 (※医師が記入する)		<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし
子宮頸部細胞診判定		
<b>ベセスダシステム</b> ・標本の適否 <input type="checkbox"/> 適正 <input type="checkbox"/> 不適正 ( ) ・陰性(NILM) <input type="checkbox"/> 微生物 <input type="checkbox"/> その他の非腫瘍性所見 ( ) ・扁平上皮系異常 <input type="checkbox"/> ASC-US <input type="checkbox"/> ASC-H <input type="checkbox"/> LSIL <input type="checkbox"/> HSIL <input type="checkbox"/> SCC		
・腺系異常 <input type="checkbox"/> AGC <input type="checkbox"/> AIS <input type="checkbox"/> 腺がん(Adeno Ca.) <input type="checkbox"/> その他の悪性腫瘍 ( )		子宮頸がん検診中/後の偶発症の有無 ※入院治療を要するもの ・重篤な偶発症の確認 <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり ( ) ・偶発症による死亡 <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり ( )
HPV検査実施及び結果		
<input type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 未実施 結果: <input type="checkbox"/> 陰性 <input type="checkbox"/> 陽性		
検診判定結果 <input type="checkbox"/> 判定不能 <input type="checkbox"/> 異常なし <input type="checkbox"/> 要精検	所見:  細胞検査士: _____ 細胞診専門医: _____	

## 子宮頸がん検診結果通知書

様

○印があなたの検診結果です。

### 子宮頸がん検診

- 1 今回の子宮頸がん検診では、異常を認めませんでした。  
これからも2年に1回は検診を受けられるようお勧めします。また、不正性器出血などの自覚症状があるときは、早い時期に医療機関を受診されるようお勧めします。
- 2 今回の検診の結果、「精密検査」が必要です。  
検診を受けた医療機関の医師の指示に従い、「子宮頸部精密検査依頼書」を御持参になり、最寄りの婦人科専門医療機関を受診してください。  
なお、健康保険証は必ず持参してください。
- 3 内診所見で異常が認められました。最寄りの婦人科専門医療機関を受診してください。  
なお、健康保険証は必ず持参してください。

年 月 日

検診機関名 \_\_\_\_\_

担当医師 \_\_\_\_\_

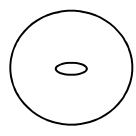
# 子宮頸部精密検査依頼書

① 子宮頸部精密検査実施医療機関保存用

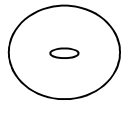
子宮頸部精密検査実施医療機関 殿

市町名 \_\_\_\_\_

下記の方は子宮頸がん検診の結果、精密検査を要するのですのでよろしくお願いいたします。  
なお、御高診の上、該当項目を記入し、結果報告書2部(②、③)を一次検診機関又は市町に御回答ください。

氏名	住所	( ) -	
生年月日	夫・昭・平	年	月 日 生 (年齢 歳)
検診日	年 月 日	検診場所	
検診機関名	双合診		クスコ診あるいはコルポスコープ所見
検診機関住所	異常		びらん <input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし
電話番号	あり・なし ↓ ( )		萎縮 <input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし
担当医師	子宮頸部細胞診判定		HPV検査
ベセスダシステム		<del>実施</del> <input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <del>結果</del> <input type="checkbox"/> 陰性 <input type="checkbox"/> 陽性( )	
・標本の適否 <input type="checkbox"/> 適正 <input type="checkbox"/> 不適正 ( ) ・陰性(NILM) <input type="checkbox"/> 微生物 <input type="checkbox"/> その他の非腫瘍性所見 ( )		・扁平上皮系異常 <input type="checkbox"/> ASC-US <input type="checkbox"/> ASC-H <input type="checkbox"/> LSIL <input type="checkbox"/> HSIL <input type="checkbox"/> SCC ・腺系異常 <input type="checkbox"/> AGC <input type="checkbox"/> AIS <input type="checkbox"/> 腺がん(Adeno Ca.) <input type="checkbox"/> その他の悪性腫瘍 ( )	
		細胞診所見: 細胞検査士: 細胞診専門医:	

## 精密検査(精密検査実施医療機関記載欄)

検査結果		びらん <input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし 萎縮 <input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし
(1) <del>クスコ診あるいは</del> コルポスコープ所見 a. NCF(正常) b. ACF(異常) c. IC(浸潤癌) d. UCF(不適例) e. MF(その他の非癌所見)		
(2) HPV検査 <input type="checkbox"/> 陰性 <input type="checkbox"/> 陽性(タイプ: ) <input type="checkbox"/> 実施なし		
(3) 細胞診検査 <input type="checkbox"/> あり: 令和 年 月 日 <input type="checkbox"/> なし: <input type="checkbox"/> 来院なし <input type="checkbox"/> その他( ) ・標本の適否 <input type="checkbox"/> 適正 <input type="checkbox"/> 不適正 ( ) ・陰性(NILM) <input type="checkbox"/> 微生物 <input type="checkbox"/> その他の非腫瘍性所見 ( )	・扁平上皮系異常 <input type="checkbox"/> ASC-US <input type="checkbox"/> ASC-H <input type="checkbox"/> LSIL <input type="checkbox"/> HSIL <input type="checkbox"/> SCC ・腺系異常 <input type="checkbox"/> AGC <input type="checkbox"/> AIS <input type="checkbox"/> 腺がん(Adeno Ca.) <input type="checkbox"/> その他の悪性腫瘍( )	
(4) 組織検査 <input type="checkbox"/> あり: 令和 年 月 日 <input type="checkbox"/> 生検 <input type="checkbox"/> 円錐切除 <input type="checkbox"/> 摘出子宮 <input type="checkbox"/> その他( ) <input type="checkbox"/> なし: <input type="checkbox"/> 来院なし <input type="checkbox"/> 組織とれず <input type="checkbox"/> その他( )		

## 最終診断

- (1) 異常なし:  a. 異常なし  b. 良性病変のみ
- (2) 異形成:  a. CIN1(軽度異形成)  b. CIN2(中等度異形成)  c. CIN3(高度異形成・上皮内癌)  d. 腺異形成
- (3) 悪性腫瘍:  a. 上皮内癌  b. 扁平上皮癌(IA期)  c. 扁平上皮癌(IB期以上)  
 d. 上皮内腺癌  e. 腺癌(IA期)  f. 腺癌(IB期以上)  
 g. その他の原発性上皮性腫瘍( )  
 h. その他の原発性腫瘍( )  
 i. 続発性腫瘍( )
- (4) コルポスコープや細胞診で所見があり、組織診で所見がない場合:

(5) 未受診: <input type="checkbox"/>	子宮頸がんの精検中/後の偶発症の有無 ※入院治療を要するもの
(6) 未把握: <input type="checkbox"/>	・重篤な偶発症の確認 <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり( ) ・偶発症による死亡 <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり( )

## 診断後の処置(今後の方針)

- (1)  要手術 (2)  入院治療  
 (3)  通院治療 (4)  経過観察( カ月後予定)  
 (5)  他院紹介(病院名 )  
 (6)  特に指示なし

精密検査実施医療機関 ( ) -
担当医師名 記載日 年 月 日

# 子宮頸部精密検査結果報告書 (検診実施機関用)

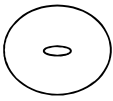
② 子宮頸がん一次検診実施機関保存用

市町名 \_\_\_\_\_

要精検者の精密検査の結果を下記のとおり通知します。

ふりがな	住所	( ) -
氏名		
生年月日 <b>大・昭・平</b>	年 月 日 生	(年齢 歳)

## 精密検査(精密検査実施医療機関記載欄)

<b>検査結果</b>			びらん <input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし
(1) <b>タスコ診あるいは</b> コルポスコプ所見			萎縮 <input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし
a. NCF(正常)    b. ACF(異常)    c. IC(浸潤癌) d. UCF(不適例)    e. MF(その他の非癌所見)			
<b>(2) HPV検査</b>			
<input type="checkbox"/> 陰性 <input type="checkbox"/> 陽性(タイプ: ) <input type="checkbox"/> 実施なし			
<b>(3) 細胞診検査</b>			
<input type="checkbox"/> あり: <b>令和</b> 年 月 日 <input type="checkbox"/> なし: <input type="checkbox"/> 来院なし <input type="checkbox"/> その他( ) ・標本の適否    ・扁平上皮系異常    ・腺系異常 <input type="checkbox"/> 適正 <input type="checkbox"/> 不適正 <input type="checkbox"/> ASC-US <input type="checkbox"/> AGC <input type="checkbox"/> 陰性(NILM) <input type="checkbox"/> ASC-H <input type="checkbox"/> AIS <input type="checkbox"/> 微生物 <input type="checkbox"/> LSIL <input type="checkbox"/> 腺がん(Adeno Ca.) <input type="checkbox"/> その他の非腫瘍性所見 <input type="checkbox"/> HSIL <input type="checkbox"/> 腺がん(Adeno Ca.) ( ) <input type="checkbox"/> SCC <input type="checkbox"/> その他の悪性腫瘍( )			
<b>(4) 組織検査</b>			
<input type="checkbox"/> あり: <b>令和</b> 年 月 日 <input type="checkbox"/> 生検 <input type="checkbox"/> 円錐切除 <input type="checkbox"/> 摘出子宮 <input type="checkbox"/> その他( ) <input type="checkbox"/> なし: <input type="checkbox"/> 来院なし <input type="checkbox"/> 組織とれず <input type="checkbox"/> その他( )			

## 最終診断

- (1) 異常なし: a. 異常なし    b. 良性病変のみ
- (2) 異形成: a. CIN1(軽度異形成)    b. CIN2(中等度異形成)    c. CIN3(高度異形成・上皮内癌)    d. 腺異形成
- (3) 悪性腫瘍: a. 上皮内癌    b. 扁平上皮癌(IA期)    c. 扁平上皮癌(IB期以上)  
d. 上皮内腺癌    e. 腺癌(IA期)    f. 腺癌(IB期以上)  
g. その他の原発性上皮性腫瘍( )  
h. その他の原発性腫瘍( )  
i. 続発性腫瘍( )

(4) コルポスコピーや細胞診で所見があり、組織診で所見がない場合:

(5) 未受診:

(6) 未把握:

子宮頸がんの精検中/後の偶発症の有無 ※入院治療を要するもの

・重篤な偶発症の確認 なし あり( )

・偶発症による死亡 なし あり( )

## 診断後の処置(今後の方針)

- (1)  要手術    (2)  入院治療  
 (3)  通院治療    (4)  経過観察(    カ月後予定)  
 (5)  他院紹介(病院名    )  
 (6)  特に指示なし

## 精密検査実施医療機関

( ) -

担当医師名  
記載日    年    月    日



# 子宮頸部精密検査結果報告書(市町用)

③ 市町保存用

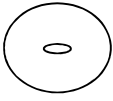
市町名 \_\_\_\_\_

要精検者の精密検査の結果を下記のとおり通知します。

なお、御高診の上、該当項目を記入し、結果報告書2部(②、③)を一次検診機関又は市町に御回答ください。

氏名	住所
生年月日	年 月 日 生 (年齢 歳)

## 精密検査(精密検査実施医療機関記載欄)

<b>検査結果</b>	
(1) <del>タスコ診</del> あるいはコルポスコープ所見 a. NCF(正常)    b. ACF(異常)    c. IC(浸潤癌) d. UCF(不適例)    e. MF(その他の非癌所見)	 びらん <input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし 萎縮 <input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし
(2) HPV検査 <input type="checkbox"/> 陰性 <input type="checkbox"/> 陽性(タイプ: _____) <input type="checkbox"/> 実施なし	
(3) 細胞診検査 <input type="checkbox"/> あり: 令和 _____年 _____月 _____日 <input type="checkbox"/> なし: <input type="checkbox"/> 来院なし <input type="checkbox"/> その他( _____ )	
<ul style="list-style-type: none"> <li>標本の適否 <input type="checkbox"/>適正 <input type="checkbox"/>不適正</li> <li>陰性(NILM) <input type="checkbox"/>微生物 <input type="checkbox"/>その他の非腫瘍性所見 ( _____ )</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>扁平上皮系異常 <input type="checkbox"/>ASC-US <input type="checkbox"/>ASC-H <input type="checkbox"/>LSIL <input type="checkbox"/>HSIL <input type="checkbox"/>SCC</li> <li>腺系異常 <input type="checkbox"/>AGC <input type="checkbox"/>AIS <input type="checkbox"/>腺がん(Adeno Ca.) <input type="checkbox"/>その他の悪性腫瘍( _____ )</li> </ul>
(4) 組織検査 <input type="checkbox"/> あり: 令和 _____年 _____月 _____日 <input type="checkbox"/> 生検 <input type="checkbox"/> 円錐切除 <input type="checkbox"/> 摘出子宮 <input type="checkbox"/> その他( _____ ) <input type="checkbox"/> なし: <input type="checkbox"/> 来院なし <input type="checkbox"/> 組織とれず <input type="checkbox"/> その他( _____ )	

<b>最終診断</b>	
(1) 異常なし: <input type="checkbox"/> a. 異常なし <input type="checkbox"/> b. 良性病変のみ	
(2) 異形成: <input type="checkbox"/> a. CIN1(軽度異形成) <input type="checkbox"/> b. CIN2(中等度異形成) <input type="checkbox"/> c. CIN3(高度異形成・上皮内癌) <input type="checkbox"/> d. 腺異形成	
(3) 悪性腫瘍: <input type="checkbox"/> a. 上皮内癌 <input type="checkbox"/> b. 扁平上皮癌(IA期) <input type="checkbox"/> c. 扁平上皮癌(IB期以上) <input type="checkbox"/> d. 上皮内腺癌 <input type="checkbox"/> e. 腺癌(IA期) <input type="checkbox"/> f. 腺癌(IB期以上) <input type="checkbox"/> g. その他の原発性上皮性腫瘍( _____ ) <input type="checkbox"/> h. その他の原発性腫瘍( _____ ) <input type="checkbox"/> i. 続発性腫瘍( _____ )	
(4) コルポスコープや細胞診で所見があり、組織診で所見がない場合: <input type="checkbox"/>	
(5) 未受診: <input type="checkbox"/>	子宮頸がんの精検中/後の偶発症の有無 ※入院治療を要するもの
(6) 未把握: <input type="checkbox"/>	・重篤な偶発症の確認 <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり( _____ ) ・偶発症による死亡 <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり( _____ )

<b>診断後の処置(今後の方針)</b>	精密検査実施医療機関 ( _____ ) -
(1) <input type="checkbox"/> 要手術 (2) <input type="checkbox"/> 入院治療 (3) <input type="checkbox"/> 通院治療 (4) <input type="checkbox"/> 経過観察( _____ ヵ月後予定) (5) <input type="checkbox"/> 他院紹介(病院名 _____ ) (6) <input type="checkbox"/> 特に指示なし	担当医師名 _____ 記載日 _____年 _____月 _____日

# 削 除

(別紙1)

## 仕様書に明記すべき必要最低限の精度管理項目

### 1 検査の精度管理

#### (1) 検査項目

検査項目は、医師による子宮頸部の検体採取による細胞診のほか、問診、視診（必要に応じて  
コルポスコープ検査）とする。

#### (2) 問診

ア 問診は、妊娠及び分娩歴、月経の状況、不正性器出血等の症状の有無、過去の検診受診状  
況等を聴取する。

イ 問診の上、症状（体がんの症状を含む）のある者には、適切な医療機関への受診勧奨を行  
う。

#### (3) 視診

外陰部を観察し、その後陰鏡を挿入し、膈壁並びに子宮頸部の状況を観察する。

#### (4) 子宮頸部細胞診検体採取（検診機関での精度管理）

ア 細胞診の方法（従来法/液状検体法、採取器具）を明らかにする。

イ 細胞診は、直視下に子宮頸部及び膈部表面の全面擦過により細胞を採取<sup>注1</sup>）、迅速に処理  
（採取した細胞は直ちにスライドガラスに塗抹して速やかに固定すること。または、直ちに  
液状化検体細胞診用の保存液ボトル内に攪拌懸濁し固定すること）する。

ウ 細胞診の業務（細胞診の判定も含む）を委託する場合は、その委託機関（施設名）を明ら  
かにする。

エ 検体が不適正との判定を受けた場合は、当該検診機関で再度検体採取を行う。不適正例が  
あった場合は必ず再度検体採取を行い、また不適正例が無い場合でも、再度検体採取を行う  
体制を有すること。

オ 検体が不適正との判定を受けた場合は、当該検診機関でその原因等を検討し、対策を講じ  
る。不適正例があった場合は必ず原因を検討し対策を講じ、また不適正例が無い場合でも、  
対策を講じる体制を有すること。

カ 問診記録、検診結果は少なくとも5年間は保存する。

#### (5) 子宮頸部細胞診判定（細胞診判定施設での精度管理）

ア 細胞診判定施設は、公益社団法人日本臨床細胞学会の施設認定を受ける。もしくは、公益  
社団法人日本臨床細胞学会の認定を受けた細胞診専門医と細胞検査士が連携して検査を行  
う<sup>注2</sup>）。

イ 細胞診陰性と判断された検体は、その 10%以上について、再スクリーニングを行い注2)、再スクリーニング施行率を報告する。

ウ 細胞診結果の報告には、ベセスダシステム注3) を用いる。

エ 全ての子宮頸がん検診標本の状態について、ベセスダシステムの基準に基づいて適正・不適正のいずれかに分類し、細胞診結果に明記する。必ず全ての標本について実施し、一部でも実施しない場合は不適切である。

オ がん発見例は、過去の細胞所見の見直しを行う。がん発見例については必ず見直しを行い、がん発見例が無い場合でも、少なくとも見直す体制を有すること。

カ 標本は少なくとも5年間は保存する。

## (6) 受診者への説明

① 下記の6項目を記載した資料を、受診者全員に個別に配布する（ポスターや問診票など持ち帰れない資料や、口頭説明のみは不可とする）。

② 資料は基本的に受診時に配布するが、市町が事前に配布している場合は検診機関からの配布を省いてもよい。

ア 検査結果は「精密検査不要」「要精密検査」のいずれかの区分で報告されることを説明し、要精密検査となった場合には、必ず精密検査を受ける必要があることを明確に説明する。

イ 精密検査の方法について説明する（精密検査としては、検診結果に基づいてコルポスコープ下の組織診や細胞診、HPV 検査などを組み合わせたものを実施すること、及びこれらの検査の概要など）。

ウ 精密検査結果は市町等へ報告すること、また他の医療機関に精密検査を依頼した場合は、検診機関がその結果を共有することを説明する。

エ 検診の有効性（細胞診による子宮頸がん検診は、子宮頸がんの死亡率・罹患率を減少させること）に加えて、がん検診で必ずがんを見つけられるわけではないこと（偽陰性）、がんがなくてもがん検診の結果が「陽性」となる場合もあること（偽陽性）など、がん検診の欠点について説明する。

オ 検診受診の継続（隔年）が重要であること、また、症状がある場合は医療機関の受診が重要であることを説明する。

カ 子宮頸がんの罹患は、わが国の女性のがんの中で比較的多く、また近年増加傾向にあることなどを説明する。

## 2 システムとしての精度管理

(1) 受診者への結果の通知・説明、またはそのための市町への結果報告は、遅くとも検診受診後4週間以内に行う。

(2) 精密検査方法及び、精密検査（治療）結果（精密検査の際に行った組織診やコルポ診、細胞診、HPV 検査の結果などや、手術によって判明した組織診断や臨床進行期のこと）について、

市町や医師会から求められた項目の積極的な把握に努める。

- (3) 診断・判定の精度向上のための症例検討会や委員会（自施設以外の子宮頸がん専門家あるいは細胞診専門医を交えた会）等を設置する。もしくは、市町や医師会等が設置した症例検討会や委員会等に参加する。

### 3 事業評価に関する検討

- (1) チェックリストやプロセス指標などに基づく検討を実施する。
- (2) がん検診の結果及びそれに関わる情報について、市町や医師会等から求められた項目を全て報告する。

### 4 がん検診の集計・報告

がん検診の集計・報告は、地域保健・健康増進事業報告に必要な項目を含む内容について市町に報告する。

注1) 一般社団法人 日本婦人科がん検診学会 子宮頸部細胞採取の手引き参照

注2) 日本臨床細胞学会 細胞診精度管理ガイドライン参照

注3) Bethesda systemによる分類：The Bethesda system for Reporting Cervical Cytology second edition 及びベセスダシステム 2001 アトラス参照

削 除

(様式1号)

年度 子宮頸がん検診事業計画書

市町名 \_\_\_\_\_

1 実施期間

年 月 日 ~ 年 月 日

2 予定人員

\_\_\_\_\_名

3 周知方法

( \_\_\_\_\_ )

4 周知期間

年 月 日 ~ 年 月 日

5 実施場所

検診機関名	検診実施住所	予定人員	備考

6 受診結果集計期間

年 月 日 ~ 年 月 日

7 精密検査結果調査期間

年 月 日 ~ 年 月 日



